

第33回静中・静高関東同窓会総会

7月6日(金) KKR ホテル東京で開催

当番幹事は85期のみなさん

静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会
会報 第64号
平成19年12月30日発行
編集人 村松 貴彦
(77期)



《ご通知》

今回から同総会の年会費(3000円)がコンビニエンスストアからお支払いできるようになりました。同封のコンビニエンスストア専用の用紙で裏面表示の各コンビニエンスストアからお支払いください。なお今回だけは郵便局からのお支払いは、別の郵便振替払込用紙でお支払いをお願いします。次回以降は統一用紙でどちらからでもお支払いができるようになります。(事務局)

第三十三回 関東同窓会のご報告

85期 安本 敬

静中・静高関東同窓会総会が、七月六日、静岡の櫻井同窓会長はじめ、多くの来賓を迎え盛大に行われた。

る前年度事業および会計の総括と新年度事業計画・予算、新年度体制が熱気に満ちた議論の末、承認されました。

女性副会長に久野さん

二〇〇七年七月六日(金) 関東地区に在住・在職する静中・静高のOB・OG諸氏160名が一同に会し、ご来賓の母校石川恵一朗教頭先生(87期)、櫻井一男本部同窓会長(64期)、菅野寛也同副会長(68期)、荻野覚同副会長(71期)、三浦俊一先生同事務局長(89期)、本告光男中部支部長(59期)にご来賓賜り、関東同窓会総会が大手町KKRホテル東京で開催されました。

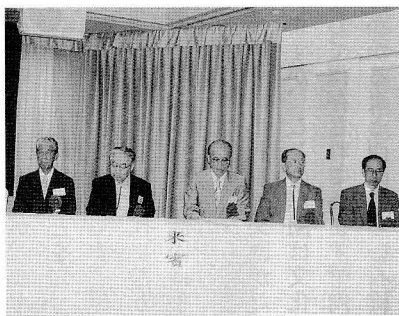
役員体制については基本的に今年度の方々に継続してお願いすることになりましたが、同窓会メンバーに女性会員が増えていることに鑑み、まとめ役を83期の久野淑子さんをお願いし、女性としては荒谷じつ子さん(68期)次来の副会長をお引き受けいただくことになりました。

幹事団代表、池田幸司君(85期)の司会で第三十三回静中・静高関東同窓会総会がスタート。

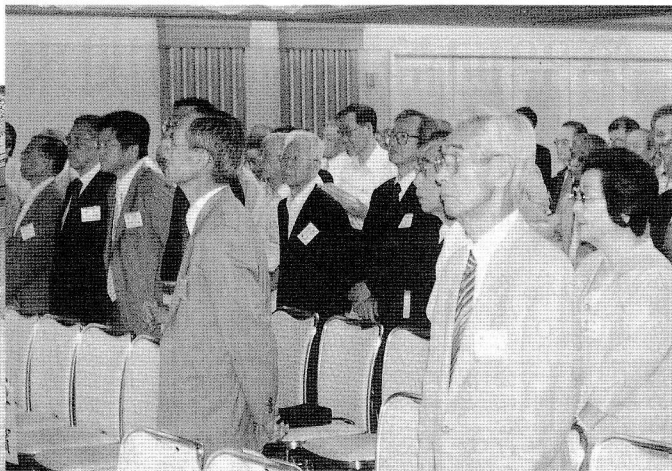
総会の後、幹事年である85期の望月敬生君に「日本建築と日本庭園・出会いとこれまで」と題して記念講演をしていただきました。

はじめに母校石川教頭先生より母校静高の近況と、なんといっても野球部の夏の大会にむけた意気込みを聞かされ、OB一同甲子園出場、いや優勝への期待に胸おどらせました。次に野方重人副会長(77期)の議長により総会が粛々と進められます。主要議題であ

大学卒業後一旦就職した建築会社を辞め早稲田大学の故渡辺保忠先生に師事した修行時代から独立後のラオス世界遺産復興や小石川後樂園の修復など数々の寺院・日本庭園の修復経験を熱く語ってもらいました。(次ページに続く)



▼ ロビーでは125周年写真展で賑わった



会場を埋めたO・B・OG諸氏も改めてその優美な日本建築と匠の技に魅せられ、時のたつのも忘れて聞き入ってしまった。最後に八面玲瓏白雪の富士山が映し出されて終了です。(講演内容は別項にて詳報)

四十分間の講演のあとは懇親会場準備のため暫時雑談タイムです。控えの間に用意された思い出の写真から最近の母校の写真が多数掲示され、それを肴に会話が弾みます。ふんどう姿の土肥海岸での水泳訓練、甲子園・草薙球場での応援風景、運動会での仮想行列、お浅間さんとなつかしい思い出が次から次へと想い起こされます。

さて、メインイベントはみんな十代にもどって語り

合う懇親会です。これも85期の林晴子さんの司会で、関東同窓会出席者最高齢・原崎郁平先輩(51期)による乾杯の音頭で開始されました。

会場の窓におろされていたカーテンが引き上げられると、夜の東京を照らす都心のあかりが飛び込んできます。闇に浮かぶ皇居、内堀通りから東京タワーへと続くオフィス街、その間を縫って流れる車のヘッドライトがパティーの雰囲気を一っそう盛り上げていきます。

テーブル上にはおなじみジューカの黒はんぺんとわさび漬け、これも無理を言って静岡のOBから取り寄せたものであります。久しぶりの静岡の味も加わって話に花が咲き、時のたつのも忘れて懇親の輪が広がっていきます。

締めくくりは逍遙歌に続いて校歌斉唱です。スクリーンには母校の姿と歌詞が映し出され、やはり85期の応援指導部・山田晴道君の指揮により、岳南健児を意気たからかに朗々と歌い上げられました。幹事も85期から86期に引き継がれ、すっかり高校生にもどった皆さんは、「さようなら来年も会わざあ」と手をふってお開きとなりました。

講演テーマ(抜粋)

「日本建築と日本庭園、出会いとこれまで」

85期 望月 敬生

コンニチハ、85期の望月です。静岡・浅間神社の参道で生まれ育ち、臨済寺で遊んだ人間ですが、日本建築の設計の道を選びました。

早稲田大学・故渡辺保忠先生のもとで十二年間修行させていただき、平成元年に独立、主に寺院建築と文化財の保護の仕事に携わっています。平成二年からは日本庭園の龍居竹之介先生と出会い、いつの間にか日本建築と日本庭園の設計に携わることになりました。

こんな男もいるんだといわれるほど、あまり人が選ばない道ですが、この機会に、日本建築の作り方、日本建築の簡単な見方、日本庭園の楽しみ方などについてお話できれば、と思います。

日本建築、日本庭園の素晴らしさは、あえて申し上げませんが、こだわりで有名な両先生から教えを受けて現在に至っています。修士課程を出てこの世界に入ってからちょうど三十年になり



ます。

静岡を卒業した人間が、こんな世界にいるということを知っていたただけで幸いです。超高層ビルが立ち並ぶ時代になりましたが、日本建築と庭園は手造りの世界です。

この近くに小石川後楽園がございますが、ここの庭園は文化財として保存されています。内庭にかかる東と西の美しい石橋は、長さ5・5メートル、橋脚の無い石橋としては日本ではこの二つだけです。

修復に関わったのですが、日本庭園のよさがわかりただけると思います。ぜひご覧になってください。

身近に日本のよさが実感でき

ることが大切ですが、今では世界への遺産修復まで及んできています。目まぐるしい時代の変化の中で、変わらぬに守り伝えていくべきものがあることを再確認していただければより一層幸いです。

プロフィール

昭和四十四年静岡高校卒業、昭和五十二年早稲田大学建築学科修士課程卒、水澤工務店就職、昭和五十三年より早稲田大学理工学研究所・渡辺保忠先生師事。平成元年、望月敏生建設設計室、平成四年(有)歴史建設設計研究体設立。

今まで行ってきた主な参加建物を紹介しておきます。

〈主な参加建物〉

修業時代

都有形文化財雑司ヶ谷鬼子母神堂修理工事(豊島区) 高幡不動尊五重塔・金堂(日野市) 早雲禅寺天嶽院伽藍復興(藤沢市) 府中郷土の森田中家住宅復原工事(府中市) 大本山永平寺別院長谷寺大庫院(港区)

独立後

天覧山能仁寺伽藍整備(飯能市) 萬吉山松月院伽藍整備(板橋区) 天羅山眞盛寺伽藍・境内整備

(杉並区) 特別史跡・名勝小石川後楽園外周築地堀他(文京区) 特別名勝六義園正門・染井門他(文京区) 名勝貞観園貞観堂修理工事(柏崎市) 世界遺産ルアンプラバーン保健学校大教室修復(ラオス)

再選のあいさつ

会長 清水 汪

これからの三年間、役員一同力を合わせて、静中・静高関東同窓会の益々の発展のために努力する決意です。

関東同窓会の正副会長の四人は、揃って再選されました。大変光栄に感じます。

この三年間をかえりみますと、会員各位の格別のご協力により同窓会の事業は着実に進んで参りました。懸案だった規約の改正もできて、業務執行体制も明確になりました。広報も一新されました。

今回新たに女性の副会長として83期の久野淑子さんが選出されたことは同窓会の運営上画期的なことですが、また多年監事として重責を果たされた松下晴一さんには感謝申し上げます。新たに監事をお引き受けくださっ

た大石脩而さん(67期)には、鳥巢修さん(89期)とともによろしく願っています。

これからの三年間、役員一同力を合わせて、静中・静高関東同窓会の益々の発展のために努力する決意です。宜しくお願い申し上げます。

副会長新任のあいさつ

83期 久野 淑子

静中・静高関東同窓会が次の世代へ続くよりよい「コミュニケーション」の場として、ますます発展するよう微力を尽くすつもりです。

83期の久野淑子です。このたび伝統ある静中・静高関東同窓会の副会長を引き受けることになりました。よろしくご指導ください。

思えば三年前の平成十六年七月、わたしは次年度総会の担当幹事のひとりとしてのお役目を負いながら、神田の中央大学記念館の総会に参加しました。

22年間の教師生活をおえたばかりで、ホッとしながらも、後の人生への思いをめぐらせていたわたしは、そのとき、多くの先輩方と出会うことで新しい世

界が開け、心の底に眠っていた静高時代の熱い思いが、きのうのこのように甦ってくるのを感じました。

冒頭、清水会長の就任のご挨拶の中で「男女共同参画時代に、わが関東同窓会に女性の役員がいないのはおかしい。自分の任期中に女性役員を誕生させたい」というお話がありました。まさかその役を自分が担うとは思いませんでした。

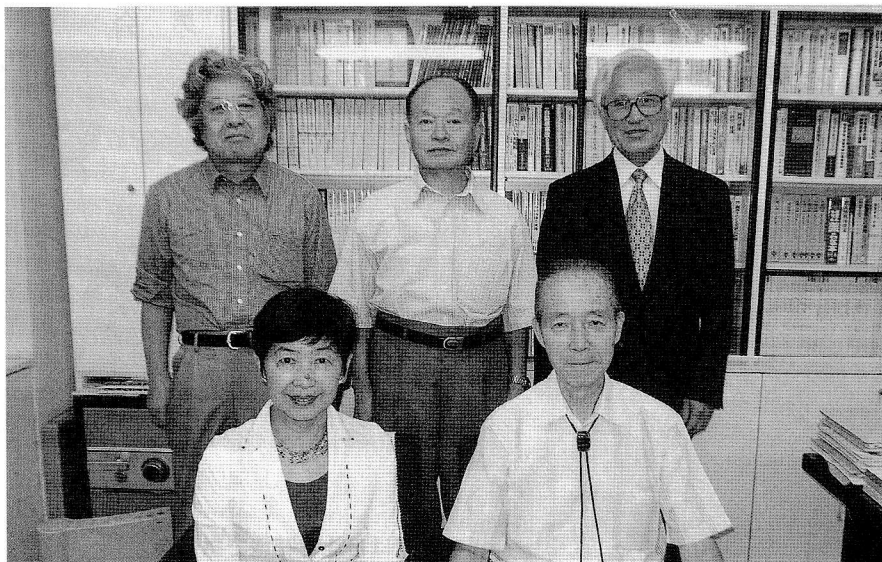
その後、当番期になった平成十七年度総会の幹事役も無事つとめ終え、後輩への引き継ぎも経験し、この会の絆の強さを痛感することを通して、やっと副会長という大役を引き受ける決心をしました。

これからも静中・静高関東同窓会が次の世代へ続くよりよいコミュニケーションの場として、ますます発展するよう微力を尽くすつもりです。

会員皆さまのご支援をお願いします。

再任、新任された会長、副会長は以下の通り。

写真前列、右 清水汪(59期) 会長、左 久野淑子(83期) 副会長、後列右から野方重人(77期) 副会長、児島英男(67期) 副会長、浦田彰(71期) 副会長(神田の野方法律事務所で撮影)



三木卓さんを祝う会

76期 斎藤 俊英

日本芸術院賞・恩賜賞を受賞されたことをお祝いして、演劇研究家の河竹登志夫さんや元NHKアナウンサーの山川静夫さん(67期)、柳沢伯夫労働大臣(70期)らが集まった。

静高70期の詩人で作家の三木卓さん(本名・富田三樹)が、



六月に日本芸術院賞・恩賜賞を受賞されたことをお祝いして、七月七日の午後、横浜駅西口の横浜エクセルホテル東急に、静高OBが多数集まりました。三木さんは、ご存知の通り、芥川賞をはじめ日賞、毎日芸術賞、藤村記念歴程賞、連如賞など数多くの賞を次々と受賞してきましたが、このたびは日本の文化芸術に多大な貢献をしてきた人に贈られるというたいへん大きく重い賞です。

そこで三木さんが毎月エッセイを連載しているかまくら春秋社が主唱して、演劇研究家の河竹登志夫さんや元NHKアナウンサーの山川静夫さん(67期)、小学館、集英社、かまくら春秋社の人々が呼びかけ人になって「三木卓さんの日本芸術院賞受賞をお祝いする会」が開かれた。当日は三十名ほどの三木さんの親しいファンが集まり、静高OBも参会者の半数を占めていました。

(71期)の司会で始まり、山川静夫さんが呼びかけ人を代表してアナウンサー時代の名調子でご挨拶をされ、続いて国会活動にたいへん忙しい中を出席された三木さんと同期の柳沢伯夫労働大臣(70期)が祝辞を述べられた。

そして三木さんの早稲田大学在学中の恩師だった河竹登志夫さんが恩賜賞受賞を祝って音頭を取り乾杯をしました。

このあと三木さんが作家の創作活動のご苦労を語り、受賞の喜びとともに謝辞を述べられました。また女優の牧三千子さんが「かまくら春秋」7月号から三木さんのエッセイ「鎌倉その日その日」を朗読。コンビニから重い原稿を札束だといって宅配で送ったときのユーモアたっぷりの話からはじまるエッセイの朗読に聞き入りました。その後も三木さんの自伝的小説『柴笛と地図』に登場する面々も交えて、時間の経つのも忘れて歓談が続き、最後に三木さんを囲んで河竹さんと静高OBが集まって記念写真に収まり閉会となりました。

追記 三木さんは十二月十五日付で日本芸術院会員になられました。

(写真前列中央 三木さん、右 柳沢さん、左は河竹さん)

TENNIS

テニス部

関東OB有志の会

67期 児島英男

第十五回テニス会

は平成十九年十一月二十日(火)明治神宮外苑テニスクラブで、秋晴れ絶好のテニス日和の中、全員楽しいプレーに興じた。いつもお元気でプレーされる清水汪氏(59期)、諸田實氏(61期)、美しいフォームでプレーされる大河内久氏(73期)、静岡テニス協会会長として活躍している柳沢学氏(68期)、も静岡から参加され元気にプレーされた。

ウエスのお洒落も
のテニス揃い
楽しむ



女子プレーヤーの吉野文江氏(84期)も、見事なプレーをされていた。

夜は北青山の中華料理店『日比谷園』で懇親会を開催、児島の司会で始まり、清水氏の乾杯で宴会に入った。

柴田克朗(63期)から終戦直後、住友の校舎でテニス部を復活させた苦労話等、昔話に花が咲き、美味しい料理とお酒で楽



◀夜は日比谷花壇で懇親会

しい一夜を過ごし、またの再会を誓って散会した。

当日の参加者は次の通り。

清水汪(59期)、諸田実(61期)、柴田克朗(63期)、岡村英二郎(67期)、柳沢学(68期)、立花雍一(68期)、増井良敏(68期)、清水雅彦(72期)、山中博司(73期)、大河内久(73期)、吉野文江(84期)、成岡和美(86期)

静岡の万葉を歩く

(三十五)

51期 原崎 郁平

浜松市天竜区三ヶ日町三ヶ日
中学校の校庭に次の二つの歌を
刻んだ万葉歌碑が立っている。

遠江 白羽の磯と

賛の浦と

あひてしあらば

言も通はむ

大部川相

巻二十・四三二四

花散らふ この向つ峰の

手那の峰の

洲につくまで

君が齢もかも

巻十四・三四四八

昭和五十七年三月五日 建立

建立者 三ヶ日中学校後援会・

PTA

揮毫者 加藤信行(元教育長)

歌碑は寸法縦百四十センチ・

横二百二十センチの自然石で、

縦七十センチ・横百十センチの

黒御影石に本文が刻んである。

歌の大意は「ここ浜名湖に見
える白羽の磯と賛の浦が近くに



あるように 私とあなたの距離
が近くであれば話はずむのに
なあ

「花が散っている、花の命は
短くとも あなたの命は手那の
峰がずっと長く延びて、あの湖
の洲に埋まってしまふほど、長
く生きていて下さいますように」

碑裏の言葉「日本国民は千三
百年も前に優れた民族的文化を
もち、その輝かしい金字塔とし
て「万葉集」を残した。「万葉
集」は世界の文学史上に類例を

GOLF

叩高(静中静高)

関東同窓会ゴルフ会

十一月十九日、いつもの川崎
国際生田緑地ゴルフ場にて好天
に恵まれて行われました。最近
は参加者減少に開催継続も心配
されたが、今回は常連の不参加
にもかかわらず第一回優勝者の
調子達郎さん(70期)や82期の
秋山好さんの参加を得てなごや
かに行うことができました。

全体にスコアはいま一つで
したが、年齢不問の今回は優勝
者2人という珍事も発生しまし
た。成績は次の通り。

一位 大石次男(61期) 76・6、
一位 荒谷じつ子(68期) 76・
6、三位 大石康博(68期) 77・
0。なお清水照彦(61期)、大
岩蓮、松永秀夫(ともに77期)
も参加していました。

次回は4月〜6月の間に行う
予定です。開催継続のためには
若手の参加を切に望みます。

幹事・77期 清水雅尚



☆お詫びと訂正

前月号(63号)6ページに
「顔写真を大きく掲載しまし
た」という朝比奈正二さんの
同期会記事を掲載しました。
記事中には66期とありましたが
実際は59期の間違いでした。
訂正します。申し訳ありませ
んでした。

同期・同窓会 いろいろ情報

「ゴルフ」と「飲み会」

64期 佐野 旭

第46回秋のゴルフ会は、足柄森林ccで関東側から七人、静岡から八人が参加して十月十日、十一日の1泊2日の日程で実施した。

当日は、みんなの「平素の心掛けの良さ」から、予報に反する好天となり、トシを忘れて右に左にと、一日楽しくボールと戯れた。

優勝は、村上喜代二君、グロス93、ネット79でベスグロ賞も併せて獲得。なんと今回が初優勝。そういえば以前「盾は貰っているけん、オラー優勝はネーダヨ」と言っていたのを思い出した。因みに準優勝は2回ある。

出だしの1番ホールと18番ホールでツmazキ、2打差でベスグロに及ばず悔しい思いをしたのは61期の清水照彦先輩。31回大会からの参戦ですが、2回の優勝を持っ。

準優勝は、当会発足当時からご協力いただいている61期の大

石次男先輩、グロス103、ネット85の成績。過去優勝・準優勝各2回の実力を今回も見せてくれた。

3位は時田勝博君、大石先輩と同ネットだったが年齢差で一步譲る。ブービーは六年振りに参加した佐藤弘幸君。久しぶりとあって、新通小学校同期の稲森照男、永田進一、時田勝博の三君とペアリングしたのが良かったか？悪かったか？

石原良昭君は1打差でブービー一步手前。10位の当日賞は漆畑茂君。ニアピンは漆畑輝夫、小川哲司、山本和彦の三君と佐野旭。

いつものゴルフが全く出来ず、苦戦の末体調不良で後半リタイヤした伊藤剛君。その後を一寸心配したが、後日「十一日昼過ぎまで寝て、すっかり回復した」との報に一安心。

表彰式はコーヒーで済ませ「初めての道路は暗くならないうちに……」と一行十人は地図を頼りに当夜の宿泊地山中湖マウント富士へ。稲森、永田、小川、時田、伊藤の5君は泊れず帰宅、しかし自宅から直行の仲野実君と合流。

天然温泉で十分に疲れを癒した後「喜寿の飲み語る会」スタート。野澤正憲君の骨折りで、会

食は個室を用意してもらう。ここでまた清水先輩から、春に続いて万寿一の新品種「でんじろう」（間違っていたらご免なさい）を振舞っていただき乾杯。

豪華な料理に舌鼓を打ち、追加自由のアルコールに口舌は滑らか。近況、懐旧談に花が咲き、予定時間はアッという間に過ぎお開きとなった。が、その後も清水・大石先輩の部屋に大勢の「ブレイモノ」が押しかけ珍談、奇談、放談の仕放題……。部屋のアルジの両先輩に促されてやっ

と散会、就眠となった。翌朝は、朝日を浴びる雄大な富士、静寂な山中湖を一望しての入浴、朝食と心身ともにリフレッシュし、チェックアウトの午前十時、来春の再会を約し家路についた。

「最短でも喜の字までは続けよう」といつていたゴルフの会も、一先ず目標をクリアし、みなさまのご協力に感謝申し、次回からは優勝、準優勝の盾の用意はしないつもり。より一層の「語り、笑い、楽しい」ゴルフに……、と願っている。



64期は喜寿を迎える年、ゴルフに飲み会と会合が多い

「病氣、健康の話は 駄目だったのに」

64期 長島 健

年に一度、互いにまみえるという彦星、織姫の故事にならない、我々の関東同窓会は毎年七夕の宵に集まっていた。ところが今年には例年の会場である天の川ならぬJR田町駅近くの酒房「道灌かがり」の予約が取れなかったため、翌日の七月八日の昼に

変更された。

この会合は、昭和三十三年以来の五十回目にあたる。また今年には同期生のほとんどが七十七歳の喜寿を迎えた年でもある。なお静中の最後の四年終了で旧制高校などへ行った者にとって、学校を去って六十年目の還暦に相当する年でもある。

同期会は十一時から始まり、在関東の十四名、静岡から駆けつけてくれた五名、合計十九名が集まった。しかし昨年の在関

東の十八名、静岡七名、計二十五名に比べるとさみしい。やはりこれも時の流れであろうか。

最初会長の野澤正憲君から、本日の会合がいつもと異なった日と時間になったことの説明があり、次回を如何に開催するかについて皆の意見を求めた。その結果、従来の経緯や同期生のほとんどが時間の余裕ができたこと、夜間での事故防止などを考慮して、七月七日に当会場で言うことに決まった。また本日欠席の準会員である松島玲子さん(69期)より、我々の喜寿の祝いとして各人にビール券の贈呈があったこと、石原良昭君から静岡名産の黒はんぺんをいただいたことなどの報告があった。

続いて、世話人の岩本吉雄君から同期生の生死について調査の依頼などがあった。

乾杯の音頭は島田の吉井駿亮君がとり、互いの健康を祝し、また祈願した。

次に静岡の同期会事務局長の海野安弘君から、全同期生二百七十人のうち、生存者は百七十八人となり、そのうち先日の静岡同期会への出席は五十名であったと静岡の近況などの報告があり、また十一月の同窓会総会への出席要望が述べられた。世話人の佐野旭君から十月のゴルフ

会開催のお知らせの後、宴会が始まった。その合間を縫って各人の近況報告が行われた。

かつては「病氣のこと、健康のことは話さない。発言時間は二分以内」ということであったが、出席者の健康への関心が高かったことなどから、この鉄則も次第に変わり、今回は健康、病氣についての詳細な報告が多かった。

なかでも塚本光彦君から、前立腺の病について初め診断を受けた医者が、アメリカへ行き学んできた新技術の放射線ヨード埋藏による手術を、数年後たまたま当該医者から受け、今は良くなったという不思議なめぐり合せや興味深い手術の話があった。同期に悩む海野君や岩本君からそれぞれの体験談や質問が飛んだ。

また益津尚文君は、脳内出血があったが幸いにも静脈であったので、手術により後遺症も無く回復したとのことである。

一方、従来百二十歳まで生きるといっていた仲野實君からは、それを八十歳に変更するが、やりたいことをやり、行きたい所へ行きたい。永田進一君は今日が誕生日で七十七歳、今も元氣だが無理をしないでゆっくり生きる。石原良昭君は毎日ゴルフ

のクラブを振っている。松下一男君は講演などを聞き毎月忙しく暮らしている。長島は、耳が遠くなったが無事に過ごしている。等々との結構な話も多かった。

竹内豊君、村松敏雄君からは静岡への転校生の思い出の話があった。異色だったのが長谷川直和君の話。曲芸をする蚤を如何に訓練して作り上げるかという話だが、その話の蚤をパントマイムで演技したのが、絵画の二科会へ入選したこともある芸術家の栗田行雄君。所用により佐藤弘幸君が早退したが、本日の開催が夜と勘違いした鈴木明郎君が登場し、会は益々賑やかになった。鈴木君は、清水港のヨットハーバーが港の中心にある経緯や、新しい静岡空港を二十四時間国際航空貨物を取り扱う空港にして静岡県を発展させるべきであるという壮大な提案を述べた。

渡邊靖君からの、静岡の野球部が振るわないのは監督がよくないのではないかの発言をきっかけとして、海野君をはじめ多くの時から提案が出され、同期の櫻井同窓会長に静岡野球の改革を推進するようお願いすることとなった。

そうこうしているうちに、楽

しい時間も過ぎて、最後に校歌斉唱で散会となった。今回は世話人の計らいで、雷門の「おこし」をお土産にいただいた。このようなお互いに楽しく巡り合う七夕をいつまでも続けたい。

67友楽会

67期 手塚 重明

会合は五年に一度では間隔が開きすぎ、三年に一度、いや二年に一度と喧しい意見の応酬

昭和二十六年卒業の関東圏内に居住する有志数名で平成4年にスタートした67友楽会も、早くも十五年の星霜を経て、いまや母校愛と友の絆の結束も堅く志を同じくする会員が毎年春秋の年2回、かつての麒麟もお互いに薄くなってきた頭髮に同情したり、されたりしながらも、当番幹事設営の料理とお酒で、健康での再会を喜び合っています。

現在、静岡関東同窓会には当会十九名のメンバーの中から児島英男君(副会長)、大石脩而君(監査役)、また幹事として朝比奈正三君、小杉弘君、鈴木敏行君の三名が選ばれて積極的に協力、活躍しています。静岡

関東同窓会に出席の折には、どうぞ前記の幹事から67友楽会の情報をお聴きください。

当67友楽会のメンバーは前述五名の他に遠藤一彦、岡村英二郎、川上剛二、河口正義、黒石聖一、黒田秀幸、小坂博、小杉謙一、長倉孝三、増田安国、矢部隆、山岡進、吉野亨、手塚重明らの諸兄がおります。

当67友楽会の行事として五年に一度は一泊清遊旅行(今まで三回実施)で温泉に浸り、地元料理と酒で心置きなく童心にかえって浩然の気を養うのを目的としてきましたが、これからの残り時間を計算すると、「五年に一度では間隔が開きすぎ、三年に一度、いや二年に一度」と喧しい意見の応酬で埒があかず、結局は次回の幹事一任で幕を閉じた訳ですが、静岡卒業後六十年近くになっても議論好きの学生時代の癖は直りません。掲載の写真は十一月十四日、池袋の某料亭(実はそば屋)にて第31回の会合の時の記念写真です。懐かしい顔、見覚えのある友人が見つかりました是非声をかけてください。当会は入会金も定額会費もなく、ただ年二回の会合の都度、当日の酒肴代の精算(割り勘)で決済している明朗会計で、ま



て幅広く触角を伸ばしていますので、仲間との静岡情報も充実しています。どうか67期卒業生の67友楽会への参加入会を心からお勧めし、併せて静高関東同窓会の更なる発展を祈念いたします。

(計) 同期のフジテレビのスポーツアナとして大活躍した鳥居滋夫君が二月に、また加藤友行君が八月に逝去されました。哀悼に堪えません。

さに肝胆相照らす同期生の話題に富み、実りと楽しみに溢れた岳南健児の心意気充滿の魅力的な会です。

会合の場所も当番幹事一任です。すから、利便性のいい都心であったり、また清浄な空気の郊外であったり、はたまた料理も日本料理、中華料理、西洋料理、また得体の知れないエスニック料理など多彩で、当番幹事の腕の見せどころです。

また静岡の同窓会、同期会との接触も小杉弘君が中心になっ

青木庄二郎君のこと

71期 浦田 彰

古希を超えてますます血氣盛ん、五木寛之氏が提唱する充実した老齡期の「林住期」を元気に生きる71期生の一人の生き方

を紹介



卒業から半世紀と2年、社会への義理を果たし終え、さまざまに第二、第三の人生を生きている同期生の中で、日頃私がこれは「えらい奴」と感服している同期生の話です。

旧聞ながら、去る十月十八日、銀座の東京都中小企業会館の9階の講堂では100人を越す人たちの熱っぽい視線が壇上に注がれていました。

「起業推進クラブ」の110回例会です。壇上で聴衆以上に熱っぽく語っているのは本日のプレゼンター新電電事業協同組合のKさん。テーマは「CO₂と経費削減に貢献する蛍光灯の紹介」。続いて㈱エコ24のYさんから「アスベストの無害化技術の開発の紹介」：etc.

主宰するのは同期の青木庄二郎君。三井物産から子会社の役員を経て、サラリーマンとして一息ついた青木君は考えました。

お願いします

現在関東同窓会会員は3000名強の方が登録されています。その方々に会報も発送していますが、一割以上が受取人不明で戻ってきます。

地元静岡を離れ、関東に居るといことは、仕事を関東でして居る証拠です。

転勤などあると思いますが、住所を変更されたときは、関東事務局まで連絡ください。

(事務局 87期・高橋宏)

インフルエンザ菌やノロウイルスの殺菌にも効果ありとわかり、大手医療メーカーが乗り出したとか。

アメリカのソフト会社が開発した常時身に着けておけば万一の時、瞬時に救命措置ができるという救急カードを紹介した会員の輸入業者が例会で大規模な代理店を獲得したとか。プラスチックの使い捨て箸を試作した発明マニアが量産してくれるメーカーを探してたとか。また、当日紹介された「アスベスト無害化技術」は早速大手建設

世は高齢化と少子化の波の中、定年期を迎えた同世代の仲間が悩んでいる。まだまだ社会にその頭脳と技を生かせる場があるはずだ、と。そこで発想したのが、延べ十一年におよぶ海外勤務を含めて培った商社マンの知恵と人脈を生かそう。人と人、お金とお金を結びつけるのは得意技だ。世は技術革新のIT時代、ベンチャー起業家は雨後のタケノコのように。しかし組織から離れた彼らにはアイデアはあっても企業化、商品化する資金も販売ノウハウもない。とすれば、そうした悩める起業家に資金と販売力を持つ人材を紹介してやたらどうか。ビジネスチャンスの創造だ、ということで平成十年四月立ち上げたのが会員制の「起業推進クラブ」です。定年後の人生設計へのアドバイスが2007年問題の先取りとなった次第。会則によればクラブの主な事業内容は、①会員による新規事業企画案の紹介とそれを実現するための討議、②業務提携の斡旋、事業および起業に関するコンサルティング、などなど。

最近成立したビジネスの例では、小さなベンチャーがスペースシャトルに搭載するために開発した空気洗浄機が意外や、鳥

会社からのオフアールがあったと聞きました。

発足当初は三十人ほどだった
会員も正会員150人を超える
までになりました。月一度の例
会には常に20前後のプレゼンテ
ションで押すな押すなの盛況で
す。またその先端的な話題性が
メディアの関心を呼び、この日
の例会にも日経グループの経済
紙が訪れ、盛んに会員たちに取
材攻勢をかけていました。

さて、しかし今ITブームは去り、世を謳歌したベンチャー企業もサバイバル・ゲームの時代です。順風満帆に見える「起業推進クラブ」も先行き厳しい局面を迎えるかもしれません。それだけに青木庄二郎の時代を見る先見性に曇りが生じないよう祈るばかりです。

一人の同期生の生き方を紹介しました。まだまだ仲間の中には何人もの青木庄二郎君がいると思います。古希を超えて五木寛之氏が提唱する充実した老齡期の林住期を元気に生きる71期生です。百人百様に生きています。

「起業推進クラブ」事務局は
090・2219・5350

静高・静岡情報

黒田祐輔投手が
阪神ドラフト四巡目指す

切り抜き朝日新聞静岡版(右)にあるとおり、静岡高2年の夏、甲子園出場を果たし、茨城・常総学院との試合に登板したことのある身長190^{センチ}、体重85kg、右投げ右打ちの黒田裕輔(21才)が十一月十九日行われたドラフトで阪神球団から4巡目で指名された。

「まったく知りませんでした。でも光栄です」と黒田。静高野球部畑田監督は「サブライズですが、本人も以前からプロでやりたいといっていたし、よかった」。黒田は3年前に静高を出て、駒沢大学に入ったが駒太田誠

静岡で同窓会定時総会が
開催された

十九年十一月三日（祝）、静

監督が勇退することで、本人も中退、地元に戻り静高で練習をしていた。「ジャンソン化粧品品にお世話になっていましたが、静高で練習させていただいていて身体は鍛えています。これからですが頑張ります」ときっぱり。即戦力というわけにはいかないが期待したい。

(取材・村松貴彦77期)

岡のホテルで同窓会総会が開催された。会場は立見席がでるほどだった。関東同窓会から清水会長はじめ副会長、幹事たちが大勢駆けつけておりあげていた。また例年行われている記念講演には東大教授で経済事情の

「活躍して恩返しする」

シャノン化粧品（静岡市駿河区）社員の黒田祐輔選手（21）が19日、阪神からドラフト4巡目で指名を受けた。昨

年末に駒沢大学を中退し、一度は野球をあきらめたが、母校・静岡高校の恩師に支えられて同校の野球部と一緒に練習をしていた。「活躍して家

黒田選手は、同社の作業着



阪神から指名 静高出身・黒田祐輔さん

窓で記者會場と現れ、うれいと言ふやうな、ひづくしてしまふ」と信じおれぬい様子だった。

岡部町生手。幼い頃に親観した巨人、阪神戦で野球にあこがれ、小の時に野球を始めた。普通高校では1年夏に甲子園に出場し、3回戦の常総学院戦、9回に登板、1人の打者を抑えた。県出身の太田敏、前駒大監督誘われ同大へ。しかし1年の末、太田監督を退任したとき、心の支えを失ったと野球辞める決意をし、昨12月に野球部退部。太学を辞め、その後地元に戻った。静かな性格で、監督と話し、「もう一度野球をやりたい」と決意を新たにした。今秋、1月豪雨は、高校で後輩野球員と共に、協力「シヤン」化粧品品には、同社員で同校野球部後援会長、川村修三から声をかけられ、5月に往。野球は、はなから、面の指名は例外だ。「阪神」の甲子園、本業、素人だし、球場のマウに立ると思うと、うれいと言ひを隠しなかつた。

第一人者
伊藤元重
氏（86期）
が、現在
の閉塞状
況の社会
状況を分
かりやす
く分析、
うなずく
視聴者が
多くみら
れた。

小嶋善吉市長（82期）
が中教審委員に就任

文部科学省は九月二十一日付
 けで小嶋市長を中央教育審議会
 の委員に任命した。

政府が今後5年間に取り組む教育政策の目標を定めた「教育振興基本計画」の素案をまとめた。

小嶋市長は地方の視点から、教員免許更新制、教員の質の確保など十一月八日東京で行われた初回会議で挨拶していた。



編集後記

▽いつもいつも会報の締切日が来てから整理しだすと、これから「原稿まとめるから入れて」と注文。できるだけ早く入稿ください。神田の事務所宛です。

(村松)

▽今回からコンビによる会費支払い方式がスタートしました。手軽にできますので会員のさらなるご協力をお願いします。

(事務局)

石 (墓、石碑)のことなら
(株)イシフク

望月 威男 (77期)
熊野雄二郎 (84期)
望月 茂樹 (101期)
望月 秀康 (107期)

〒421-1224 静岡市葵区飯間 71
TEL 054-278-6610

関東の人に、安心して紹介する
管理の良い環境

八王子

東京靈園

〒193-0826 東京都八王子市元八王子町
TEL 042-661-6734

○お墓、石碑、建材、石のことなら気軽に相談ください。

鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴木与平 (76期)

〒424-8703 静岡市清水区入船町11-1
TEL 054 (354) 3015 (秘書室)

京浜支店 〒140-0013 東京都品川区南大井6-25-3
ビリーヴ大森5F
TEL 03 (6404) 2100

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役会長 岩井平一郎 (57期)

本 社 〒422-8004 静岡市駿河区国吉田3丁目1番1号
TEL 054 (262) 1111(代)

東京支社 〒104-0031 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F
TEL 03 (3272) 4651 (代)

株式会社 富士越化成

代表取締役会長 野澤正憲 (64期)

〒140-0004 東京都品川区南品川2-17-11
TEL 03 (5783) 3841
FAX 03 (5783) 3755

お茶の心を伝える

愛 国 製 茶

代表取締役 馬場 泰男 (64期)

本 社
東京都新宿区西早稲田3-7-9 TEL 03-3207-1611(代表)
高田馬場店
東京都新宿区高田馬場4-12-7 TEL 03-3363-6611(代表)

東京無線タクシーグループ 公和自動車交通株式会社

〒162-0813 東京都新宿区東五軒町3-3 ☎03-3269-3281

都心のオアシス・ゴルフ練習場

(株)公和ゴルフセンター

大江戸線・若松河田駅隣り ☎03-3202-6558

代表取締役 山中博司 (73期)

自動車・火災・傷害保険 (株)大高保険事務所

代表取締役 清水雅尚 (77期)

〒150-0011 東京都渋谷区東3-15-8
TEL 03 (3406) 9350
携帯 090-7800-3767

同窓会で人の輪を!!

野方重人法律事務所

弁護士 野方重人 (77期)

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3
敷下ビル6F
(TEL) 03 (3251) 2348
(FAX) 03 (3257) 0820

* 昼 2 時より夜11時まで診療 *

タカラ歯科診療所

代表 ^{フラ シナ アキ オ} 藁科名雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩 5 分
TEL 0120-376-480
FAX 03-3710-8847

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥巢修税理士事務所

税理士 鳥巢 修 (89期)
OSAMU TOSU

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17
TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848
E-mail: tosu@mtj.biglobe.ne.jp

調剤薬局……関東・東海・関西中心に100余店舗

株式会社 アイセイ薬局

健康と幸せを願って

代表取締役 岡村幸彦 (93期, 応援指導部)

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-14-5
TEL 03 (5651) 7200
<http://www.aisei.co.jp>